

地域の防火・防災だより

青葉

AOBA

大学と地域の連携で「防災力」の強化を

東北福祉大学 総務部 災害対策課 係長 結城 卓

東日本大震災以降、本学では学生の防災・減災意識の向上を目指し、定期的に学内外での訓練や啓発活動に取り組み、多くの学生がそれに関わり、携わってきました。

新入生を対象とした入学時教育の一環として行ってきた防災訓練・教育も今年で5年目となりました。毎年、約1,500名の学生が教職員と共に、楽しみながら防災について学び、熱心に体験型訓練に取り組む姿は、震災の記憶の風化が懸念される中、頼もしくも思えます。学生たちが社会に巣立った後に、これらの経験をそれぞれが与えられた役割の中で、活かしていってくれることを目的としています。

大学と地域住民との防災・減災を通じた交流として、こちらも平成25年から行っている「外国人住民を対象とした防災教室」があります。当初、仙台観光国際協会（当時は仙台国際交流協会）と本学とで、「災害時要援護者支援体制の推進による防災機能の強化プロジェクト（平成25年度文部科学省委託事業）」から波及する形で第1回目が開催されました。その後、平成27年から、より身近に住む外国人住民に目を向けるために、仙台観光国際協会、東北大学、本学の3者の共催とし、本学に隣接する東北大学のユニバーシティ・ハウス三条に住む留学生とその家族を主たる対象とし、さらに本学の留学生、その他、仙台市内に住む外国人住民にも幅広く周知をし、年々、参加者数も増加しています。ここでも多くの学生たちが我々の運営を手助けしてくれ

ています。学生たちは皆、自分と違う環境や、文化、言語で育ってきた同年代の留学生やその家族たちを前にして、戸惑いながらも防災・減災について、何かを伝えようと努力してくれています。留学生の中には日本に来て間もない人、地震とは無縁の地からやってきた人もいます。そういった不安や、知識がないという点も理解したうえで、学生たちは多文化との交流と同時に多くの貴重な経験をしていると思います。

他にも地域の指定避難所で行われる連合町内会各ブロックの地域の防災訓練にも、今まで多くの学生が参加させていただいています。学生たちの中には大学の付近で生活する者も多いため、自分自身も地域の方々の「顔の見える関係」を築き、地域での防災・減災の取り組みを知ること、いざというときに自分に何が出来るか、何をすべきかを考えるととても良い機会となっていると思います。

今までもこれからも、大学が常に地域と共にあり、そこに住まう人々がいる限り、防災・減災に対して地域住民の皆さんと本学の学生とが力を合わせていく関係性は変わらないと思います。少子高齢化がさらに顕著になっていくことは間違いありません。学生は大きな地域防災の「力」となるべき存在です。今後も、学生の積極的かつ主体的な活動、取り組みをサポートしながら、学生と地域を繋ぎ、活動の場を与える役割をしっかりと担っていきたいと思います。



学内での新入生防災訓練



外国人市民のための防災教室



地域の防災訓練（三条中学校）